



空き家が「人」と「地域」をつなぐ



Interview

受け継いだ思いを 未来へ



まつむら しんいちろう まさこ
松村 信一郎 さん・正子 さん

平成27年に大阪府から成羽町布寄へ移住。賃貸住宅へ居住後、令和3年に日向さんから自宅を購入。就農後、現在はぶどう農家を営まれている。

ある場合は、空き家と移住の窓口などの専門家に相談することで解決の糸口が見つかることもあります。ぜひ空き家に関する制度をうまく活用しながら、ご自身にあった住まい探しを進められてはいかがでしょうか。

料理人として大阪市で働いていましたが、「いつか地方へ移住してぶどう農家をやりたい」という夢を持っていました。高梁市の移住イベントに参加する機会があり、話を聞くうちに魅力を感じて移住を決めました。

初めは成羽町布寄の賃貸の一軒家で生活し、ぶどう農家として活動する中で家を持ちたい思いも出てきました。そんなときにご縁もあって日向さんの家をお譲りいただくことになりました。

日向さんは購入後も何かと気にかけてくださり、地元である布寄のことを教えてくれたり、娘の世話や困ったときなどは相談に乗ってくれたりして今でも助けてもらっています。最近も家族ぐるみ

家族の思い出が詰まった大切な住まいだからこそ、空き家になる前に、または問題が深刻化する前に、親族で話し合うなどして、今一度考えてみませんか？迷ったときや困ったときは、いつでも気軽に「空き家と移住の窓口」などへ相談してください。

負の財産と ならないために

空き家は、所有者や地域にとって課題となる一方で、その価値を見出し、活用しようとする人も増えていきます。空き家を「問題」として捉えるだけでなく、「必要とする人に大切に使う」という視点を持つことで、家や地域に新たな活力をもたらすことも可能です。

さまざまな理由から空き家が放置されるケースが多いのが現状ですが、大切にしてきた家が劣化し、周囲に迷惑をかけるようになってしまつては、さらに心苦しい状況になりかねません。

Interview

生まれ育った家を 次世代へ



ひゅうが みえこ
日向 美恵子 さん

成羽町布寄で生まれ育ち、現在は落合町阿部に在住。令和3年にぶどう農家を営んでいる松村さんへ実家を売却。

両親が亡くなったことを機に実家が空き家となりました。その後、相続で実家を所有することとなり、子どもたちへの引き継ぎや管理面の大変さなどを感じていた中、たまたま市の広報紙で「空き家情報バンク」についての記事を見て連絡をしました。それが松村さんとの出会い、最終的に売却し家をお譲りすることとなった最初のきっかけです。



地元のお祭りや年末年始などには親族が集まっていた大切な場所

空き家情報バンクへの登録相談をした際、すぐに担当者が家を見に来てくれて、スムーズに段取り

今でも松村さんご家族とは交流があり、正子さんと一緒に出掛けたり、子どもさんと一緒に遊ばせてもらったりしています。年末には私の家に集まり、みんなでご飯

をすることができました。その後ご縁もあり、買主である松村さんへ家をお譲りすることになりました。実際に成約したときは、安心した気持ちになれたの覚えています。また、「この家を有効活用してもらえたら良いな」と心から願いました。

生まれ育った地域のことを考えると、地域の皆さんともうまくやっていける人に家をお譲りしたいという思いが強くなりました。

松村さんは私の家に住む前から近くの賃貸住宅に住まわれていて、地域とも積極的につながりを持って活動されていることを知り、「この人なら家を任せられる、お譲りしたい」という気持ちになりました。

家をお譲りした後、松村さんはリフォームを行い、きれいにして住んでくれています。家を引き継ぎ、新しい命を吹き込んでくれた松村さんには本当に感謝しています。

を食べたりもしていて、実の息子や娘のような感覚です。

空き家は早く手を打てば何とかなるケースが多いものです。時間が経つほど、修繕や管理の負担は大きくなってしまいますが、少しでも「どうしようかな」「気になるな」と思ったその時こそ、動き出すチャンスです。専門家に相談することで、思いがけない解決策や新しい活用の道が見えてくることもあります。

不安や悩みを一人で抱え込まず、ぜひ一步を踏み出して、次に住む人へ、そして地域へとつながる前向きな空き家対策を進めていただきたいと思います。

